

【基本情報】

教科	芸術	学年	1年	教科書	書道 I (教育出版)
科目	書道 I	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	墨心
科目概要	中学校国語科の書写における学習を基礎にして、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書及び鑑賞についての幅広い活動を展開し、芸術としての書の表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばすことなどを狙いとしており、書道研究における発展的な学習の基礎を養う科目です。				
到達目標	漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書及び鑑賞について幅広く活動し、芸術としての書の表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばします。				
授業の進め方	ほぼ毎時間、書道実技が中心です。 プリントや鑑賞、書道理論なども適宜織り交ぜます。				
留意事項	「継続は力なり」・・・ただ提出された作品のみでなく、追求する過程も評価します。 楽しく伸びやかな表現を目指します。 書道用具は、評価の公平を期すために、全員同じ物を使用します。 書道用具は、書道室内に保管します。 移動・準備は、休み時間中に完了させてください。				
家庭学習					
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化の関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	10%	授業に対する姿勢や積極性を評価します。
B. 書表現の構想と工夫	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	20%	作品の変容の過程を評価します。 討論をする姿勢や、考えたことを伝えようとする積極性を評価します。
C. 創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけている。	60%	提出された作品を評価します。
D. 鑑賞の能力	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書の良さや美しさを創造的に味わっている。	10%	書の美しさを知識として理解しているか評価します。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
オリエンテーション	2	シラバスの説明 用具・用材の説明	○					1年間の授業内容を知る。
漢字仮名交じりの書1	2	中学校書写との連携	○		○	○		中学校書写を振り返る。
漢字の書1	10	臨書—木簡 作品制作	○	○	○	○		木簡の基礎を知り、親しむことができるようにする。
漢字の書2	8	篆書 篆刻 姓名印制作	○	○	○	○		篆書・篆刻方法を理解し、完成度の高い印を仕上げられるようにする。
漢字の書3	12	臨書—自由課題 作品制作（展覧会出品）	○	○	○	○		興味を持つ古典を選択し、調べ学習の後、特徴を表現することができるようにする。
漢字の書4	12	臨書—建中帖 作品制作	○	○	○	○		建中帖の特徴を理解し、表現できるようにする。 意欲的に知識や技術を得ようと活動する。
漢字の書5	6	臨書—蘭亭叙 作品制作	○	○	○	○		蘭亭叙の特徴を理解し、表現できるようにする。 意欲的に知識や技能を得ようと活動する。
漢字仮名交じりの書2	12	永訣の朝 作品制作	○	○	○	○		漢字仮名交じりの書の基本を理解し、表現できるようにする。 永訣の朝を理解し、詩情に合う表現を目指せるようにする。 意欲的に知識や技能を得ようと活動する。
仮名の書1	14	臨書—高野切第一種 作品制作	○	○	○	○		高野切第一種の特徴を理解できるようにする。 意欲的に知識や技能を得ようと活動する。

【基本情報】

教科	外国語	学年	1年	教科書	PROMINENCE English Communication I
科目	コミュニケーション英語 I	単位数 (年間予定コマ数)	3 (156)	副教材	英単語・熟語 Bricks 1 (いづな書店)
科目概要	中学校3カ年で学んだことを基礎にして聞く・話す・読む・書くといった言語活動を多様な場面において経験させながら、中学校および高等学校における学習内容を何度も繰り返しながら指導し、定着させていく。(副教材を使用しながら定期的に単語・熟語テストを実施)				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書で新しく学ぶ単語・熟語400語(句)を理解する。(語彙力) ・課末の演習問題の英文を完全に覚える。(英文力) ・英語で自分の考え・意見を言うことができる。(英語での表現力) ・多様な英文を決められた時間内で概要把握ができる。(速読力) ・ややゆっくりした速度の英文を聞き、大まかな内容を理解することができる。(リスニング力) 				
授業の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習を前提に教科書を中心にした授業を進めていくため、単語・熟語の意味を辞書で調べ次の授業で扱う本文の概要をとらえて授業に臨むこと。 2. 英語を読む・聞く・書く・話すという4技能のバランスを考えた授業展開を行う。 3. 小テスト・課題学習を随所に取り入れていく。(目標点数に達しない場合は追試を実施) 4. ペア学習・音読の練習を積極的に取り入れ、英語の音声に慣れさせていく。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書・ノート(またはファイル)・辞典をいつも用意しておくこと。 ・評価は4回の定期考査(中間・期末)、夏季・冬季休業明けの確認テスト、単語テスト、提出物、日常の授業への取り組み姿勢をもとにして評価する。 ・定期考査では10~20点の割合でリスニング問題を出題する。 ・授業内でわからないことや疑問に思うことがあるときはその日のうちに質問し解決しておくこと。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習をしっかりと行うこと(継続は力なり) ・テレビ等の語学講座を利用し、英語の生の音に触れる機会を多く持つこと(習うより慣れよ) ・英語検定等の資格試験も積極的に活用し、各自の英語力向上に役立てていくこと 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は週4コマ実施する(年間総授業数156コマ)。 				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワーク等の活動に積極的に取り組んでいるか。	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の積極的な取り組み ・教師の発問に対して積極的に発言しようとする態度
B. 表現の能力	各レッスンの内容についての感想や日常的な話題について簡単な英語で表現することができるか。	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出・発表 ・教科書課末のコミュニケーション活動の取り組み
C. 理解の能力	英文を聞き大まかな内容が理解でき、また、英文を読みその要点を理解することができるか。	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニングテスト ・筆記テスト(内容把握) ・ワークシート
D. 知識・理解	英語の学習を通して各課で取り上げられている話題の背景知識・内容を理解すると共に文化が異なる人々の考え方を理解することができるか。	40%	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記テスト(総合問題) ・ワークシート

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
オリエンテーションおよび中学校英語の復習	6		○		○			文法を中心とした復習事項の理解（プリント使用）
Lesson 1 We Are Together	10	共に生きる 単語・熟語の小テスト			○	○		各セクションの概要・要点をとらえ、英語の文構造、不定詞の使い方が理解できる。
Lesson 2 Animal Emotions	12	共生について学ぶことができる 英問英答の小テスト			○	○		聞き手に伝わるような音読ができ、比較表現、受け身の使い方が理解できる。
<前期中間考査> 前期中間考査まで29コマ	1							
Lesson 3 One Ocean, One People	14	異文化理解 ディクテーション形式の小テスト リスニング問題			○	○		本文で学んだことについて英語・日本語で感想を出し合うことができ動名詞、分詞の使い方が理解できる。
Lesson 4 Landfill Harmonic	14	異国と日本との違いを発見できる エッセイライティング（提出）			○	○		本文で学んだことについてその感想を英文でまとめることができ現在・過去完了の使い方が理解できる。
<前期期末考査> 前期期末考査まで29コマ	1							
Lesson 5 Katsushika Hokusai, a Japanese Genius	14	日本人と日本文化 速読問題演習			○	○		本文の概要・要点をおさえ、それを簡単な英文で要約し相手に伝えることができ、関係代名詞の使い方が理解できる。
Lesson 6 A Stranger but True Superhero	14	日本や日本文化について紹介することができる リスニング問題			○	○		トピックセンテンスをとらえながら英文を読むことができ、疑問詞節の用法が理解できる。
Lesson 7 What's an Ig?	14	科学技術			○	○		科学に対する理解を深め、5文型の補語の働きが理解できる。
<後期中間考査> 後期中間考査まで43コマ	1							
Lesson 8 The State-of-te-Art Origami Engineering	16	日本の科学技術について紹介することができる リスニング問題			○	○		分詞構文や仮定法を使って表現することができる 物語文を読み、話の展開を簡単に英語で説明することができる、分詞構文の使い方が理解できる。
Lesson 9 Father of the Paralympic Games	16	現代社会			○	○		
Lesson 10 Save Washington Square Park!	16	生き方について話し合うことができる 速読問題演習			○	○		完了分詞構文の使い方が理解できる。
<学年末考査> 後期期末考査まで51コマ	1							
1年間のまとめ	6							1年間の総復習
年間予定授業コマ数	156							

【基本情報】

教科	外国語	学年	1年	教科書	Departure English Expression I Revised
科目	英語表現 I	単位数 (年間予定コマ数)	1 (78)	副教材	
科目概要	基本的な言語規則に基づいて、様々な場面に応じて適切に話すことや書くことが出来るようにし、あわせて論理的思考力や批判的思考力を養うことをねらいとしている科目である。				
到達目標	英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 各レッスンのモデル会話文を通して、発音・イントネーション、重要表現、文化背景等について学習する。また、文法事項を体系的に学習し、練習問題等で確実に身につけ、応用問題への基礎固めをする。具体的には 予習していることを前提に授業を進める。進むペースが速いので家庭での予習・復習が必ず必要となる。また、わからないところは授業中及び授業後に積極的に質問をすること。 リスニングやスピーキングの基礎になる音読練習を重視する。その意味を理解して積極的に声を出すこと。 Expressing で自分のことや自分の周りのことを英語で言えるようトレーニングする。間違いを恐れずに意欲的に取り組むこと。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 音読練習やペアワークでは積極的に大きな声を出すこと。 週2時間の授業なので予習・復習といった家庭学習を確実に行うこと。また毎回課題を出すので、正確・丁寧にいき、期日に遅れないよう取り組むこと。課題の提出については評価(成績)の1部となる。 ノート、筆記用具、辞書を必ず持参すること。もし、忘れ物をした場合は事前に申し出ること。 プリント等もたくさん出すので、紛失のないようファイルを用意して保管すること。 休み時間のうちに授業準備をしておき、チャイムと同時に学習できる体勢を整えておくこと。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> 最低でも1時間の授業で進む所までは予習をすること。モデル会話文は英文の意味を確認したら、3回以上は音読練習をすること。グラマーの解説文をよく読み、エクササイズの問題を解くこと。その際、わからないところは必ずチェックして、授業で確認すること。復習ではやはり音読練習を行い、解説文→問題といった具合に再度学習事項の確認をすること。予習→授業→復習で3回同じ部分の学習をするということを習慣づけること。 授業ではリスニングや音読練習の時間を十分にとることができないので、特に、リスニングについては、ラジオ・テレビの英会話番組を、また、単語集付属のCD等を活用し自ら学習すること。 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> この科目は2年間で履修する。 この授業は週2コマ実施する(年間総授業数78コマ)。 				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話に関心を持ち聞き、発話しようとしている。 間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。 	10%	授業中の活動・発表
B. 表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話や例文を英語らしい発音で発話することができる。 自分や周りのことを話すことができる。 学んだ文法を使って、文章を書くことができる。 	5%	授業中の活動・発表・課題の提出
C. 理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選ぶことができる。 モデル会話を英語らしい発音で読むことができる。 パラグラフの構成を理解している。 	5%	授業中の活動・課題の提出・小テスト・定期考査
D. 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選ぶことができる。 モデル会話を英語らしい発音で読むことができる。 パラグラフの構成を理解している。 	80%	授業中の活動・課題の提出・小テスト・定期考査

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
ブリッジ教材	6	動詞の基本活用・名詞・基本語 形容詞・副詞の活用 進行形・未来形 現在完了 いろいろな文・疑問文・助動詞 受動態 不定詞・動名詞・分詞・比較 関係代名詞・接続詞・長文読解演習	○	○				・基本的な文法事項（中学での既習事項）を復習し、高校英語の土台を作る。
Lesson 1 Our School Starts	8	<紹介> イントネーション 相づちを打つ。聞き直す。 文の種類		○	○			・様々な文の種類(平叙文・疑問文・命令文・感嘆文)の英文を書くことができる。 ・プロフィール情報を聞き取ることができる。
Lesson 2 My Friends	8	<興味・関心> リズム 言い換える。話題を変える。 文型と動詞		○	○			・様々な種類の動詞を用い、適切な文型を使って英文を書くことができる。 ・英語のリズムをつかむ。
前期中間考査 (考査まで 23コマ)	1							
Lesson 3 My Hometown	8	<故郷> 母音 計画する。予定する。 時制		○	○			・完了形を使って、現在・過去・未来の完了、結果、継続、経験を表すことができる。
Lesson 4 My Plan for the Future	8	<将来> 子音 原因・理由を述べる。 完了形		○	○			・現在、過去、未来についての英文を書くことができる。 ・旅行計画の会話を聞いて理解することができる。 ・英語の子音を聞き分けることができる。
前期期末考査 (考査まで 計17コマ)	1							
Lesson 5 Movies and Music	9	<映画と音楽> 完了形 許可を求める。依頼する。		○	○			・完了形を使って、現在・過去・未来の完了、結果、継続、経験を表すことができる。
Lesson 6 Save the Earth	9	<環境> 助動詞 数字の発音 喜ぶ。驚く。 受動態		○	○			・助動詞を使って、能力・許可・義務・禁止・推量などを表すことができる。 ・レストランでの会話の内容を聞いて理解することができる。
後期中間考査 (考査まで 計19コマ)	1							
Lesson 7 Food and Health	9	<健康> 助動詞 感謝する。謝罪する。		○	○			・助動詞を使って、能力・許可・義務・禁止・推量などを表すことができる。
Lesson 8 Fun to Discover Japan	9	<日本> 受動態 勧誘する。申し出る。		○	○			・受動態を使って適切に英文を書くことができる。 ・時間や日付、値段などの数字を含む英語を聞いて理解することができる。
後期期末考査 (考査まで 計19コマ)	1							
年間総予定授業コマ数	78							

【基本情報】

教科	外国語	学年	1年	教科書	PROMINENCE English Communication I
科目	SS英語I a (コミュニケーション英語I分野)	単位数 (年間予定コマ数)	3 (156)	副教材	英単語・熟語 Bricks 1 (いいずな書店)
科目概要	中学校3カ年で学んだことを基礎にして聞く・話す・読む・書くといった言語活動を多様な場面において経験させながら、中学校および高等学校における学習内容を何度も繰り返しながら指導し、定着させていく。(副教材を使用しながら定期的に単語・熟語テストを実施)				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書で新しく学ぶ単語・熟語400語(句)を理解する。(語彙力) ・課末の演習問題の英文を完全に覚える。(英文力) ・英語で自分の考え・意見を言うことができる。(英語での表現力) ・多様な英文を決められた時間内で概要把握ができる。(速読力) ・ややゆっくりした速度の英文を聞き、大まかな内容を理解することができる。(リスニング力) 				
授業の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習を前提に教科書を中心にした授業を進めていくため、単語・熟語の意味を辞書で調べ次の授業で扱う本文の概要をとらえて授業に臨むこと。 2. 英語を読む・聞く・書く・話すという4技能のバランスを考えた授業展開を行う。 3. 小テスト・課題学習を随所に取り入れていく。(目標点数に達しない場合は追試を実施) 4. ペア学習・音読の練習を積極的に取り入れ、英語の音声に慣れさせていく。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書・ノート(またはファイル)・辞典をいつも用意しておくこと。 ・評価は4回の定期考査(中間・期末)、夏季・冬季休業明けの確認テスト、単語テスト、提出物、日常の授業への取り組み姿勢をもとにして評価する。 ・定期考査では10~20点の割合でリスニング問題を出題する。 ・授業内でわからないことや疑問に思うことがあるときはその日のうちに質問し解決しておくこと。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習をしっかりと行うこと(継続は力なり) ・テレビ等の語学講座を利用し、英語の生の音に触れる機会を多く持つこと(習うより慣れよ) ・英語検定等の資格試験も積極的に活用し、各自の英語力向上に役立てていくこと 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は週4コマ実施する(年間総授業数156コマ)。 				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワーク等の活動に積極的に取り組んでいるか。	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の積極的な取り組み ・教師の発問に対して積極的に発言しようとする態度
B. 表現の能力	各レッスンの内容についての感想や日常的な話題について簡単な英語で表現することができるか。	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出・発表 ・教科書課末のコミュニケーション活動の取り組み
C. 理解の能力	英文を聞き大まかな内容が理解でき、また、英文を読みその要点を理解することができるか。	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニングテスト ・筆記テスト(内容把握) ・ワークシート
D. 知識・理解	英語の学習を通して各課で取り上げられている話題の背景知識・内容を理解すると共に文化が異なる人々の考え方を理解することができるか。	40%	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記テスト(総合問題) ・ワークシート

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
オリエンテーションおよび中学校英語の復習	6		○		○			文法を中心とした復習事項の理解（プリント使用）
Lesson 1 We Are Together	1 0	共に生きる 単語・熟語の小テスト			○	○		各セクションの概要・要点をとらえ、英語の文構造、不定詞の使い方が理解できる。
Lesson 2 Animal Emotions	1 2	共生について学ぶことができる 英問英答の小テスト			○	○		聞き手に伝わるような音読ができ、比較表現、受け身の使い方が理解できる。
<前期中間考査> 前期中間考査まで29コマ	1							
Lesson 3 One Ocean, One People	1 4	異文化理解 ディクテーション形式の小テスト リスニング問題			○	○		本文で学んだことについて英語・日本語で感想を出し合うことができ動名詞、分詞の使い方が理解できる。
Lesson 4 Landfill Harmonic	1 4	異国と日本との違いを発見できる エッセイライティング（提出）			○	○		本文で学んだことについてその感想を英文でまとめることができ現在・過去完了の使い方が理解できる。
<前期期末考査> 前期期末考査まで29コマ	1							
Lesson 5 Katsushika Hokusai, a Japanese Genius	1 4	日本人と日本文化 速読問題演習			○	○		本文の概要・要点をおさえ、それを簡単な英文で要約し相手に伝えることができ、関係代名詞の使い方が理解できる。
Lesson 6 A Stranger but True Superhero	1 4	日本や日本文化について紹介することができる リスニング問題			○	○		トピックセンテンスをとらえながら英文を読むことができ、疑問詞節の用法が理解できる。
Lesson 7 What's an Ig?	1 4	科学技術			○	○		科学に対する理解を深め、5文型の補語の働きが理解できる。
<後期中間考査> 後期中間考査まで43コマ	1							
S S 科学英語講読	8	科学英語に関する基礎的な英単語、理科実験や科学英語の独特な表現を学び、科学英語を読む力や英語での理科実験の基礎力をつける。			○	○		理科系で用いる専門用語、独特な表現を学び、英語での理科実験等を実施する。
Lesson 8 The State-of-te-Art Origami Engineering	1 4	日本の科学技術について紹介することができる リスニング問題			○	○		分詞構文や仮定法を使って表現することができる
Lesson 9 Father of the Paralympic Games	1 4	現代社会			○	○		物語文を読み、話の展開を簡単に英語で説明することができ、分詞構文の使い方が理解できる。
Lesson 10 Save Washington Square Park!	1 4	生き方について話し合うことができる 速読問題演習			○	○		完了分詞構文の使い方が理解できる。
<学年末考査> 後期期末考査まで51コマ	1							
1年間のまとめ	4							1年間の総復習
年間予定授業コマ数	1 5 6							

【基本情報】

教科	外国語	学年	1年	教科書	Departure English Expression I Revised
科目	SS英語Ib (英語表現I分野)	単位数 (年間予定コマ数)	1 (78)	副教材	
科目概要	基本的な言語規則に基づいて、様々な場面に応じて適切に話すことや書くことが出来るようにし、あわせて論理的思考力や批判的思考力を養うことをねらいとしている科目である。				
到達目標	英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 各レッスンのモデル会話文を通して、発音・イントネーション、重要表現、文化背景等について学習する。また、文法事項を体系的に学習し、練習問題等で確実に身につけ、応用問題への基礎固めをする。具体的には 予習していることを前提に授業を進める。進むペースが速いので家庭での予習・復習が必ず必要となる。また、わからないところは授業中及び授業後に積極的に質問をすること。 リスニングやスピーキングの基礎になる音読練習を重視する。その意味を理解して積極的に声を出すこと。 Expressing で自分のことや自分の周りのことを英語で言えるようトレーニングする。間違いを恐れずに意欲的に取り組むこと。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 音読練習やペアワークでは積極的に大きな声を出すこと。 週1時間の授業なので予習・復習といった家庭学習を確実に行うこと。また毎回課題を出すので、正確・丁寧にいき、期日に遅れないよう取り組むこと。課題の提出については評価(成績)の1部となる。 ノート、筆記用具、辞書を必ず持参すること。もし、忘れ物をした場合は事前に申し出ること。 プリント等もたくさん出すので、紛失のないようファイルを用意して保管すること。 休み時間のうちに授業準備をしておき、チャイムと同時に学習できる体勢を整えておくこと。 				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> 最低でも1時間の授業で進む所までは予習をすること。モデル会話文は英文の意味を確認したら、3回以上は音読練習をすること。グラマーの解説文をよく読み、エクササイズの問題を解くこと。その際、わからないところは必ずチェックして、授業で確認すること。復習ではやはり音読練習を行い、解説文→問題といった具合に再度学習事項の確認をすること。予習→授業→復習で3回同じ部分の学習をするということを習慣づけること。 授業ではリスニングや音読練習の時間を十分にとることができないので、特に、リスニングについては、ラジオ・テレビの英会話番組を、また、単語集付属のCD等を活用し自ら学習すること。 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> この科目は2年間で履修する。 この授業は週2コマ実施する(年間総授業数78コマ)。 				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話に関心を持ち聞き、発話しようとしている。 間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。 	10%	授業中の活動・発表
B. 表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話や例文を英語らしい発音で発話することができる。 自分や周りのことを話すことができる。 学んだ文法を使って、文章を書くことができる。 	5%	授業中の活動・発表・課題の提出
C. 理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選ぶことができる。 モデル会話を英語らしい発音で読むことができる。 パラグラフの構成を理解している。 	5%	授業中の活動・課題の提出・小テスト・定期考査
D. 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選ぶことができる。 モデル会話を英語らしい発音で読むことができる。 パラグラフの構成を理解している。 	80%	授業中の活動・課題の提出・小テスト・定期考査

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
ブリッジ教材	6	動詞の基本活用・名詞・基本語 形容詞・副詞の活用 進行形・未来形 現在完了 いろいろな文・疑問文・助動詞 受動態 不定詞・動名詞・分詞・比較 関係代名詞・接続詞・長文読解演習	○	○				・基本的な文法事項（中学での既習事項）を復習し、高校英語の土台を作る。
Lesson 1 Our School Starts	8	<紹介> イントネーション 相づちを打つ。聞き直す。 文の種類		○	○			・様々な文の種類(平叙文・疑問文・命令文・感嘆文)の英文を書くことができる。 ・プロフィール情報を聞き取ることができる。
Lesson 2 My Friends	8	<興味・関心> リズム 言い換える。話題を変える。 文型と動詞		○	○			・様々な種類の動詞を用い、適切な文型を使って英文を書くことができる。 ・英語のリズムをつかむ。
前期中間考査 (考査まで 23コマ)	1							
Lesson 3 My Hometown	8	<故郷> 母音 計画する。予定する。 時制		○	○			・完了形を使って、現在・過去・未来の完了、結果、継続、経験を表すことができる。
Lesson 4 My Plan for the Future	8	<将来> 子音 原因・理由を述べる。 完了形		○	○			・現在、過去、未来についての英文を書くことができる。 ・旅行計画の会話を聞いて理解することができる。 ・英語の子音を聞き分けることができる。
前期期末考査 (考査まで 計17コマ)	1							
Lesson 5 Movies and Music	9	<映画と音楽> 完了形 許可を求める。依頼する。		○	○			・完了形を使って、現在・過去・未来の完了、結果、継続、経験を表すことができる。
Lesson 6 Save the Earth	9	<環境> 助動詞 数字の発音 喜ぶ。驚く。 受動態		○	○			・助動詞を使って、能力・許可・義務・禁止・推量などを表すことができる。 ・レストランでの会話の内容を聞いて理解することができる。
後期中間考査 (考査まで 計19コマ)	1							
Lesson 7 Food and Health	9	<健康> 助動詞 感謝する。謝罪する。		○	○			・助動詞を使って、能力・許可・義務・禁止・推量などを表すことができる。
Lesson 8 Fun to Discover Japan	9	<日本> 受動態 勧誘する。申し出る。		○	○			・受動態を使って適切に英文を書くことができる。 ・時間や日付、値段などの数字を含む英語を聞いて理解することができる。
後期期末考査 (考査まで 計19コマ)	1							
年間総予定授業コマ数	78							

【基本情報】

教科	家庭	学年	1年	教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍311）
科目	家庭基礎	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	オールガイド食品成分表2019（実教出版）
科目概要	「自分らしい人生をつくる」では自分自身の人生について見つけ、協力してつくる家庭生活や家庭と社会との関係について学びます。「子どもと共に育つ」「高齢社会を生きる」では、人に配慮した生活ができることを目指し、子どもや高齢者、障がいがある人を理解し、すべての人々がより良く生きることを考えます。「衣生活をつくる」「食生活をつくる」「住生活をつくる」「経済生活を営む」では生活を科学的に理解し、生活に応用できる技術を身につけます。				
到達目標	<p>①自分の生活を見直す力 自分自身のライフスタイルを生活時間、金銭管理、健康管理、環境管理などの面から見直し、実践できる。</p> <p>②適切な意志決定する力 生活を科学的に理解し、生活のあらゆる場面で適切に対応し、行動する力を身につける。</p> <p>③生活を実際につくっていく技術 手を使ってのものにはたらきかけ、目耳鼻舌など五官を使って実物にふれ、体験を通して応用できる生活技術を身につける。</p> <p>④家族や人々とかかわる力 家族や地域社会の人々とともに生きるために必要な知識とコミュニケーション能力、支援能力を身につける。</p>				
授業の進め方	授業形態は一斉とグループ学習。 基本的に、座学はホームルーム教室、実習は調理教室・被服室へ移動。				
留意事項	教科書、ノート、A4版ファイル（家庭基礎用）、食生活分野では食品成分表を準備する。 調理実習時はエプロン、三角巾、ハンカチ、ティッシュ、実習記録プリント、ペンのみ持参する。 自分自身の生活と関連づけるとともに、他者ともつながりながら学習する。 実習中は安全面に留意し、グループで協力し、能率良く作業を進める。 家庭生活と社会の関わりを理解するため、新聞・ニュースに関心を持つ。 マナーを守り、けじめある態度で授業に臨む。				
家庭学習	毎日の生活そのものが学習です。身の回りで起こっていることや、困っていること、良くしたいことなどの問題を挙げ、解決のための計画・実践が家庭科の学習を発展させていきます。毎回の授業を大切にし、提出物を確実に出すこと。				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	20%	課題学習の提出物、提出状況、実習に臨む態度
B. 思考・判断	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて見直し、課題見つけ、その解決を目指して思考を深めている。	20%	定期考査、課題学習の提出物
C. 技能・表現	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。	30%	被服製作品、調理実習、視聴覚教材視聴後のレポート
D. 知識・理解	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	30%	定期考査
E.		%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
第1章 自分らしい人生をつくる	15	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭基礎を学ぶにあたって ・生きていくには何が必要か？ ・自立について ・性別役割分業意識 ・家族とは？ ・赤ちゃんが減っていく ・結婚相手はどんな人 ・ジェンダー ・女も男も「仕事も家庭も」 ・働くということ ・民法・婚姻について ・夫婦別姓を導入すべきか ・これからの自分を考える 	○	○				<p>今までの自分を客観的に振り返る。</p> <p>キャリア教育と関連させ、これからの自分を考える。</p> <p>現代家族の特徴や機能について、歴史的・文化的・社会的変化と関連させて理解する。</p> <p>家族の法律について理解する。</p> <p>民法についての規定をめぐる論議でなにが問題なのか課題意識持つ。</p> <p>よりよい男女関係や家庭生活について考える。</p>
第2章 子どもと共に育つ	10	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんのからだ ・子どもに絵を描いてもらおう ・乳幼児保育の意義 ・子どもの育ち方の特徴 ・子どもが育つ環境 ・出生前診断をどう思う？ 		○	○			<p>乳幼児期の心身の特徴と発達について理解する。</p> <p>子どもは、親や保育者と強い愛着関係で結ばれ、周りの人々とのかかわりの中で育つことを理解する。</p> <p>生命倫理上の課題から、自他の生命尊重について考えを深め自己の意志決定に基づき、責任を持った行動することを自覚する。</p>
第3章 高齢社会を生きる 第4章 共に生き、共に支える	10	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症を学び地域を支える ・高齢社会の将来像 	○	○	○			<p>日本の高齢社会の現状を把握する。</p> <p>高齢者の心身の特徴を知る。</p> <p>高齢者を支える仕組みを理解する。</p> <p>高齢社会の課題を知り、地域社会の一員としての役割を考える。</p>
前期期末考査	1							
第6章 衣生活をつくる	17	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の起源 ・制服の役割 ・衣服材料の種類と特徴 ・洗濯の科学・衣服の選択 ・基礎縫い ・エプロン製作 		○	○	○		<p>被服は何のために着るのか、被服は生活活動にどのように役立っているのか理解する。</p> <p>健康で安全、快適な衣生活を送るため、賢く被服を選択し、衣服を取り扱うことができる。</p> <p>基礎縫いを習得し、調理実習で使用するエプロンを製作することができる。</p>
第7章 住生活をつくる	5	<ul style="list-style-type: none"> ・住生活をデザイン 		○	○			<p>住居の機能やライフステージごとの住要求を理解し、住計画を立てることができる。</p>
第5章 食生活をつくる	15	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ食べるのか ・5大栄養素のはたらき ・何をどれだけ食べるのか ・調理実習 <ul style="list-style-type: none"> ① ピザ ② 親子どんぶり 吸い物 ③ 青椒炒牛肉糸 清湯三糸 ④ ロールケーキ 		○	○	○		<p>食をめぐる課題について知り、よりよい食生活を実践できる。</p> <p>栄養素のはたらきを知り、健康に過ごすための食生活に役立たせることができる。</p> <p>調理することで食べ物になることを理解し、調理技術を身につける。</p> <p>配膳・盛りつけの方法を身につけ、心豊かな食事の演出を心がける。</p>
後期末考査	1			○	○			
第8章 経済生活を営む	4	<ul style="list-style-type: none"> ・家計のしくみ ・卒業後の生活設計 		○	○	○		<p>収入と支出の実態を知り、ライフステージ全体を見通して、収入を計画的に使えるようにする。</p> <p>現代の消費生活の特徴を理解し、自立した消費者を目指す。</p>
総予定授業コマ数	78							

【基本情報】

教科	情報	学年	普通科 1年	教科書	最新 社会と情報 新訂版
科目	社会と情報	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	最新 社会と情報 新訂版 学習ノート
科目概要	情報は、2003年度より、新設された情報教育を行うための必修教科であり、「社会と情報」「情報の科学」から1科目2単位を選択し、履修する教科である。本校ではより基礎・基本的な内容を取り扱う「社会と情報」を履修する。				
到達目標	この科目の目標は情報社会に積極的に参画する態度を育てることである。その際、情報を活用し表現する視点から情報の特徴や情報社会の課題について、情報モラルや望ましい情報社会の構築の視点から情報化が社会に及ぼす影響について理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うために必要な基礎的な知識と技能を習得する。				
授業の進め方	座学2割・実習8割程度の割合で授業を進めます。授業の最初には入力練習を行い、コンピュータ入力に慣れることを目指します。実習ではワープロソフト・表計算ソフト・電子メールソフト・プレゼンテーションソフトを扱います。ワープロソフト・表計算ソフトでは情報の蓄積・分析・加工の手段の1つとして少しでも活用できることを目指します。電子メールの実習では電子メールソフトの設定をし、実際にメールのやりとりを行い、仕組みを少しでも理解することを目指します。プレゼンテーションソフトウェアでは基本的な使い方を学び、情報を収集し、実際に個人個人がプレゼンテーションをクラスに向けて行います。発表は相互・自己評価をします。座学のキーワードは「著作権」「標本化」「量子化」「電子メール」「知的財産の保護」「コミュニケーション」です。				
留意事項	①教科書は授業ですべてを触れないので、各自で該当の範囲を学習すること。 ②実習中は私語を慎み、作業に取り組むこと。 ③保存に失敗した場合は必ず申し出ること ④実習中は遠慮無く質問をすること。 ⑤パソコンのトラブル等何かあれば連絡してください。				
家庭学習	・情報メディア（スマートホン等）などに関するテレビ番組・書籍などに興味を持ち、その有効性や危険性について普段から学ぶ姿勢を持ちましょう。 ・インターネットの技術などに興味を持ち、ただ利用するだけでなく、その仕組みはどのようになっているかなどそれぞれの機会に応じて学習してください。				
備考	下記の4観点を100点の評価点で換算し、評価をつけます。 おおよそ評価点により次のように評価をします。 ～50点「1」 50～60「2」 60～75「3」 75～90「4」 90～「5」				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価の観点
A. 関心・意欲・態度	基本的に授業に臨む態度(服装や整理整頓を含む)等で評価します。	15%	情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとしているか。
B. 思考・判断・表現	実習で作成したデータ、提出物等で評価します。	15%	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現しているか。
C. 技能	実習での普段の取り組みを含めて、作成したデータ等で評価します。	20%	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技術を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っているか。
D. 知識・理解	基本的に定期考査で評価します。	50%	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解しているか。
E.		%	

【年間計画①】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
情報社会	2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報や知識についての意味を理解する。 ・情報のデジタル化によるコミュニケーションの変化を理解する。 ・情報化が人類に利益と幸福をもたらしていることについて理解する。 ・情報化の「影」について、高校生 に身近な事例で理解する。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・情報化の光と影について理解し、具体例を示すことができるか。
情報とメディア	4	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の残存性、複製性、伝播性など情報社会における情報の特徴について理解する。 ・情報とメディアの関係、メディアの分類を理解する。 ・各表現メディアの特性について理解する。 ・マスメディアやインターネット等、情報メディアの特性を理解する。 ・記録メディア、通信メディアなど伝達メディアの特性を理解する。 ・情報の信憑性、信頼性について理解する。 ・メディアリテラシーの意味を理解する。 ・情報伝達における適切なメディアの選択について理解する。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・情報やメディアの特徴、分類、特性について知識を持っているか。 ・情報の信憑性や信頼性を理解しているか。 ・メディアリテラシーの概念を理解しているか。
情報モラルと社会のルール	8	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の意味と個人情報保護法について理解する。 ・個人情報の漏洩の実態、防止対策について学ぶ。 ・メールやSNSを利用する際のモラルとマナーについて学ぶ。 ・有害サイト、チェーンメール等、特に携帯電話利用の注意点を理解する。 ・出会い系サイト規制法など、情報社会に係わる大切な法律について理解する。 ・自己の責任を自覚し、他者の権利を尊重する態度を身に付ける。 ・知的財産権の構成について理解する。 ・産業財産権の種類と内容について事例を通じて理解する。 ・著作権の構成と各権利の内容、及び例外規定について理解する。 ・著作権の侵害事例について理解し、著作権法を守る態度を身に付ける。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の概念や、個人情報保護について理解しているか。 ・知的財産の体系を理解しているか。 ・産業財産権と著作権の種類と内容を理解しているか。 ・著作権の例外規定を理解しているか。 ・インターネットに係わる各種法律を理解しているか。
情報表現の工夫	15	<ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達する際の留意点について学ぶ。 ・ワープロソフトの基本的な使い方について学ぶ。 ・チラシや案内状の作成を通じてわかりやすい情報伝達について学ぶ。 ・企画書の作成を通じて、文字・表・図形・画像などを工夫して利用する。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・情報を伝達する際の注意事項について理解しているか。 ・チラシや企画書を改善す方法について理解しているか。
情報セキュリティ	4	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータウイルスの種類や被害の状況、及びその対策について理解する。 ・情報の暗号方式（共通鍵方式と公開鍵方式）について理解する。 ・情報のフィルタリングについて理解する。 ・企業や組織のセキュリティ対策の必要性を理解する。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ対策の必要性を理解しているか。

【年間計画②】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
表計算ソフトの利用	4	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトへのデータ入力について実習で学ぶ。 相対参照と絶対参照の使い分けについて実習で学ぶ。 各種のグラフとその特徴について学ぶ。 表計算ソフトを使ってグラフを作成する。 表計算を利用してデータの並べ替えができるようにする。 表計算を利用してデータの抽出ができるようにする。 表計算ソフトの関数の利用について理解する。 SUM, IF などの関数を利用してデータの統計や、条件のある計算を実習で習得する。 表計算ソフトの検索用関数 (VLOOKUP 関数等) を利用して、条件に合ったデータの検索について実習で学ぶ。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> グラフの種類や機能についての知識を持ち、適切に利用できるか。 目的に応じて数値の変化や割合などをグラフで表現する知識があるか。 条件に合わせて関数を選択して利用するための知識があるか。
前期期末考査 (考査まで38コマ)	1			○	○	○		
コミュニケーション	4	<ul style="list-style-type: none"> 技術の進歩によるメディアの発達の歴史について理解する。 メディアの変遷によるメリット・デメリットについて理解する。 発信者と受信者の人数・位置関係によるコミュニケーションの分類について理解する。 同期・非同期によるコミュニケーションの分類について理解する。 電子メールやメーリングリストを利用する時のルールとマナーを理解する。 電子掲示板を利用する時のルールとマナーを理解する。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> メディアの発達史に関する知識をもっているか コミュニケーションの各種の分類や形態を理解しているか 電子メールや電子掲示板を利用する際のルールやマナーの知識を持っているか
ネットワーク	4	<ul style="list-style-type: none"> パケット交換方式の長所と短所について理解する。 コミュニケーションを行う時のプロトコルについて学ぶ TCP/IP について理解する。 IP アドレスやドメインについて学び、実習で IP アドレスを確かめる。 WWW について学び、ブラウザで Web ページを表示する仕組みについて理解する。 電子メールの仕組みについて学ぶ。 転送速度とデータ量の基本的な計算ができるようにする。 デジタル情報の圧縮について理解する。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> インターネットのプロトコル及び LAN の基本知識があるか。 インターネットの基本的なサービスの内容と利用方法を理解しているか。 ネットワークの転送速度とデータ圧縮に関する知識があるか。
プレゼンテーション	14	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションソフトウェアの基本的な使い方を学ぶ プレゼンテーション実施の流れについて学ぶ。 プレゼンテーションのリハーサルや実施上の留意点について理解する。 プレゼンテーションの評価方法について学ぶ。 静止画と動画の利用効果について実習を通じて学ぶ。 実際にプレゼンテーションを経験する。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション制作の流れを理解しているか。 プレゼンテーション制作の各段階のポイントを理解しているか。 自分なりにプレゼンテーションをすることができたか。
情報機器とデジタル	4	<ul style="list-style-type: none"> アナログとデジタルの意味について理解する。 デジタル化のメリットについて理解する。 情報機器の種類と特徴、インターフェースについて学ぶ。 デジタルカメラの原理や画像・映像の処理について学ぶ。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> アナログとデジタルの概念とその相違を理解しているか。 情報機器の種類と特徴について理解しているか。

【年間計画③】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
デジタル表現	5	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を2進数で表現することについて理解する。 ・情報量の概念と単位について理解する。 ・2進数・10進数・16進数の相互変換ができるようにする。 ・文字のデジタル表現について理解する。 ・音声の標本化、量子化、符号化について理解する。 ・周波数・周期の関係や、標本化定理について理解する。 ・デジタルでの音-表現の原理について学ぶ。 ・画像のデジタル化の仕組みと、解像度と階調と画質の関係を理解する。 ・図形のデジタル表現について理解する。 ・音声のデータ量を求めることができるようにする。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・2進数と情報量について理解しているか。 ・2進数・10進数・16進数の相互変換の方法を理解しているか。 ・数値・文字・音声・画像など、情報のデジタル化の原理を理解しているか。 ・音声、画等のデータ量を計算できるか。
情報システムと人間	3	<ul style="list-style-type: none"> ・座席予約、POS など身近な情報システムの仕組みと働きについて学ぶ。 ・情報の受け手のことを考えた情報表現やユーザビリティの工夫について考える。 ・サイバー犯罪の種類と具体例を理解し、受信者のリスクや対策について考える。 ・デジタルデバイドなど情報社会の課題について考える。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・社会における主な情報システムの種類と内容について理解しているか。 ・ユーザビリティやアクセシビリティに関する知識があるか。 ・サイバー犯罪など情報社会の課題について理解しているか。
後期期末考査 (考査まで35コマ)	1			○	○	○		
問題解決	2	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程を理解する。 ・問題解決のための手段の選択について考える。 ・ブレインストーミング、KJ 法などアイデアの収集と分類について学ぶ。 ・データの統計処理とグラフ化、及びグラフを利用した分析について学ぶ。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の手順と解決するための工夫を理解しているか。 ・問題解決のための情報収集やアイデア収集・分類の手法を理解しているか。
情報発信	1	<ul style="list-style-type: none"> ・Webサイトを用いた情報発信の方法について学ぶ。 ・Webサイトの評価と改善の方法について知る。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・Webサイトの作成方法について理解しているか。 ・Webサイトの評価方法を理解し、改善に活かすことができるか。
年間総予定授業コマ数	78							

※このシラバスは、あくまで予定を示したもので、状況により時間配分や内容などを変更することがある。

【基本情報】

教科	情報	学年	理数科 1年	教科書	最新 社会と情報 新訂版
科目	社会と情報	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	最新 社会と情報 新訂版 学習ノート
科目概要	情報は、2003年度より、新設された情報教育を行うための必修教科であり、「社会と情報」「情報の科学」から1科目2単位を選択し、履修する教科である。本校ではより基礎・基本的な内容を取り扱う「社会と情報」を履修する。				
到達目標	この科目の目標は情報社会に積極的に参画する態度を育てることである。その際、情報を活用し表現する視点から情報の特徴や情報社会の課題について、情報モラルや望ましい情報社会の構築の視点から情報化が社会に及ぼす影響について理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うために必要な基礎的な知識と技能を習得する。				
授業の進め方	座学2割・実習8割程度の割合で授業を進めます。授業の最初には入力練習を行い、コンピュータ入力に慣れることを目指します。実習ではワープロソフト・表計算ソフト・電子メールソフト・プレゼンテーションソフトを扱います。ワープロソフト・表計算ソフトでは情報の蓄積・分析・加工の手段の1つとして少しでも活用できることを目指します。電子メールの実習では電子メールソフトの設定をし、実際にメールのやりとりを行い、仕組みを少しでも理解することを目指します。プレゼンテーションソフトウェアでは基本的な使い方を学び、情報を収集し、実際に個人個人がプレゼンテーションをクラスに向けて行います。発表は相互・自己評価をします。座学のキーワードは「著作権」「標本化」「量子化」「電子メール」「知的財産の保護」「コミュニケーション」です。				
留意事項	①教科書は授業ですべてを触れないので、各自で該当の範囲を学習すること。 ②実習中は私語を慎み、作業に取り組むこと。 ③保存に失敗した場合は必ず申し出ること ④実習中は遠慮無く質問をすること。 ⑤パソコンのトラブル等何かあれば連絡してください。				
家庭学習	・情報メディア（スマートホン等）などに関するテレビ番組・書籍などに興味を持ち、その有効性や危険性について普段から学ぶ姿勢を持ちましょう。 ・インターネットの技術などに興味を持ち、ただ利用するだけでなく、その仕組みはどのようになっているかなどそれぞれの機会に応じて学習してください。				
備考	①本来の単位は2単位であるが、SSHにより「探究基礎」に1単位を代替措置をしているため、本科目の単位数は1単位となっている。 ②下記の4観点を100点の評価点で換算し、評価をつけます。 おおよそ評価点により次のように評価をします。 ～50点「1」 50～60「2」 60～75「3」 75～90「4」 90～「5」				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価の観点
A. 関心・意欲・態度	基本的に授業に臨む態度(服装や整理整頓を含む)等で評価します。	15%	情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとしているか。
B. 思考・判断・表現	実習で作成したデータ、提出物等で評価します。	15%	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現しているか。
C. 技能	実習での普段の取り組みを含めて、作成したデータ等で評価します。	20%	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技術を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っているか。
D. 知識・理解	基本的に定期考査で評価します。	50%	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解しているか。
E.		%	

【年間計画①】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
情報社会	1	<ul style="list-style-type: none"> ・情報や知識についての意味を理解する。 ・情報のデジタル化によるコミュニケーションの変化を理解する。 ・情報化が人類に利益と幸福をもたらしていることについて理解する。 ・情報化の「影」について、高校生 に身近な事例で理解する。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・情報化の光と影について理解し、具体例を示すことができるか。
情報とメディア	2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の残存性、複製性、伝播性など情報社会における情報の特徴について理解する。 ・情報とメディアの関係、メディアの分類を理解する。 ・各表現メディアの特性について理解する。 ・マスメディアやインターネット等、情報メディアの特性を理解する。 ・記録メディア、通信メディアなど伝達メディアの特性を理解する。 ・情報の信憑性、信頼性について理解する。 ・メディアリテラシーの意味を理解する。 ・情報伝達における適切なメディアの選択について理解する。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・情報やメディアの特徴、分類、特性について知識を持っているか。 ・情報の信憑性や信頼性を理解しているか。 ・メディアリテラシーの概念を理解しているか。
情報モラルと社会のルール	3	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の意味と個人情報保護法について理解する。 ・個人情報の漏洩の実態、防止対策について学ぶ。 ・メールや SNS を利用する際のモラルとマナーについて学ぶ。 ・有害サイト、チェーンメール等、特に携帯電話利用の注意点を理解する。 ・出会い系サイト規制法など、情報社会に係わる大切な法律について理解する。 ・自己の責任を自覚し、他者の権利を尊重する態度を身に付ける。 ・知的財産権の構成について理解する。 ・産業財産権の種類と内容について事例を通じて理解する。 ・著作権の構成と各権利の内容、及び例外規定について理解する。 ・著作権の侵害事例について理解し、著作権法を守る態度を身に付ける。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の概念や、個人情報保護について理解しているか。 ・知的財産の体系を理解しているか。 ・産業財産権と著作権の種類と内容を理解しているか。 ・著作権の例外規定を理解しているか。 ・インターネットに係わる各種法律を理解しているか。
情報表現の工夫	2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達する際の留意点について学ぶ。 ・ワープロソフトの基本的な使い方について学ぶ。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・情報を伝達する際の注意事項について理解しているか。
プレゼンテーション	6	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトウェアの基本的な使い方を学ぶ。 ・プレゼンテーション実施の流れについて学ぶ。 ・プレゼンテーションのリハーサルや実施上の留意点について理解する。 ・プレゼンテーションの評価方法について学ぶ。 ・静止画と動画の利用効果について実習を通じて学ぶ。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション制作の流れを理解しているか。 ・プレゼンテーション制作の各段階のポイントを理解しているか。
情報セキュリティ	2	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータウイルスの種類や被害の状況、及びその対策について理解する。 ・情報の暗号方式（共通鍵方式と公開鍵方式）について理解する。 ・情報のフィルタリングについて理解する。 ・企業や組織のセキュリティ対策の必要性を理解する。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ対策の必要性を理解しているか。

【年間計画②】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
表計算ソフトの利用	2	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトへのデータ入力について実習で学ぶ。 相対参照と絶対参照の使い分けについて実習で学ぶ。 各種のグラフとその特徴について学ぶ。 表計算ソフトを使ってグラフを作成する。 表計算を利用してデータの並べ替えができるようにする。 表計算を利用してデータの抽出ができるようにする。 表計算ソフトの関数の利用について理解する。 SUM, IF などの関数を利用してデータの統計や、条件のある計算を実習で習得する。 表計算ソフトの検索用関数 (VLOOKUP 関数等) を利用して、条件に合ったデータの検索について実習で学ぶ。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> グラフの種類や機能についての知識を持ち、適切に利用できるか。 目的に応じて数値の変化や割合などをグラフで表現する知識があるか。 条件に合わせて関数を選択して利用するための知識があるか。
前期期末考査 (考査まで19コマ)	1			○	○	○		
コミュニケーション	2	<ul style="list-style-type: none"> 技術の進歩によるメディアの発達の歴史について理解する。 メディアの変遷によるメリット・デメリットについて理解する。 発信者と受信者の人数・位置関係によるコミュニケーションの分類について理解する。 同期・非同期によるコミュニケーションの分類について理解する。 電子メールやメーリングリストを利用する時のルールとマナーを理解する。 電子掲示板を利用する時のルールとマナーを理解する。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> メディアの発達史に関する知識をもっているか コミュニケーションの各種の分類や形態を理解しているか 電子メールや電子掲示板を利用する際のルールやマナーの知識を持っているか
ネットワーク	2	<ul style="list-style-type: none"> パケット交換方式の長所と短所について理解する。 コミュニケーションを行う時のプロトコルについて学ぶ TCP/IP について理解する。 IP アドレスやドメインについて学び、実習で IP アドレスを確かめる。 WWW について学び、ブラウザで Web ページを表示する仕組みについて理解する。 電子メールの仕組みについて学ぶ。 転送速度とデータ量の基本的な計算ができるようにする。 デジタル情報の圧縮について理解する。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> インターネットのプロトコル及び LAN の基本知識があるか。 インターネットの基本的なサービスの内容と利用方法を理解しているか。 ネットワークの転送速度とデータ圧縮に関する知識があるか。
情報表現の工夫	4	<ul style="list-style-type: none"> ワープロソフトの基本的な使い方について学ぶ チラシや案内状の作成を通じてわかりやすい情報伝達について学ぶ。 企画書の作成を通じて、文字・表・図形・画像などを工夫して利用する。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> 情報を伝達する際の注意事項について理解しているか。 チラシや企画書を改善する方法について理解しているか。
情報機器とデジタル	3	<ul style="list-style-type: none"> アナログとデジタルの意味について理解する。 デジタル化のメリットについて理解する。 情報機器の種類と特徴、インターフェースについて学ぶ。 デジタルカメラの原理や画像・映像の処理について学ぶ。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> アナログとデジタルの概念とその相違を理解しているか。 情報機器の種類と特徴について理解しているか。

【年間計画③】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
デジタル表現	3	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を2進数で表現することについて理解する。 ・情報量の概念と単位について理解する。 ・2進数・10進数・16進数の相互変換ができるようにする。 ・文字のデジタル表現について理解する。 ・音声の標本化、量子化、符号化について理解する。 ・周波数・周期の関係や、標本化定理について理解する。 ・デジタルでの音-表現の原理について学ぶ。 ・画像のデジタル化の仕組みと、解像度と階調と画質の関係を理解する。 ・図形のデジタル表現について理解する。 ・音声のデータ量を求めることができるようにする。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・2進数と情報量について理解しているか。 ・2進数・10進数・16進数の相互変換の方法を理解しているか。 ・数値・文字・音声・画像など、情報のデジタル化の原理を理解しているか。 ・音声、画等のデータ量を計算できるか。
情報システムと人間	2	<ul style="list-style-type: none"> ・座席予約、POS など身近な情報システムの仕組みと働きについて学ぶ。 ・情報の受け手のことを考えた情報表現やユーザビリティの工夫について考える。 ・サイバー犯罪の種類と具体例を理解し、受信者のリスクや対策について考える。 ・デジタルデバイドなど情報社会の課題について考える。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・社会における主な情報システムの種類と内容について理解しているか。 ・ユーザビリティやアクセシビリティに関する知識があるか。 ・サイバー犯罪など情報社会の課題について理解しているか。
後期期末考査 (考査まで17コマ)	1			○	○	○		
問題解決	1	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程を理解する。 ・問題解決のための手段の選択について考える。 ・ブレインストーミング、KJ法などアイデアの収集と分類について学ぶ。 ・データの統計処理とグラフ化、及びグラフを利用した分析について学ぶ。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の手順と解決するための工夫を理解しているか。 ・問題解決のための情報収集やアイデア収集・分類の手法を理解しているか。
情報発信	1	<ul style="list-style-type: none"> ・Webサイトを用いた情報発信の方法について学ぶ。 ・Webサイトの評価と改善の方法について知る。 	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> ・Webサイトの作成方法について理解しているか。 ・Webサイトの評価方法を理解し、改善に活かすことができるか。
年間総予定授業コマ数	39							

※このシラバスは、あくまで予定を示したもので、状況により時間配分や内容などを変更することがある。

【基本情報】

教科	探究	学年	1年	教科書	なし
科目	探究基礎	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	なし
科目概要	2年次で履修する『課題探究』または『課題研究』に向けて、課題を発見する過程を体験する。また、「科学史」を題材に「探究の手法」や「プレゼンテーション」の基礎についてグループ活動を通して学習する。最終的には、2年次に取り組む『課題探究』または『課題研究』のテーマ決めを行う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力して取り組み、議論し考察することができる。 ・グループ内やグループ間でプレゼンテーションをすることができる。 ・グループで協力して「仮説の設定」「検証方法」を取り入れた「探究計画」を作成できる。 ・グループで協力して研究テーマを設定できる。 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な課題に対してグループで積極的に資料を調べたり議論をして問題を解決します。 ・グループ内だけではなくグループ間でも意見交換を行います。 ・自分たちが実施したプレゼンテーションが、相手にしっかり伝わり、定着しているかを確認するため、小テストを実施します。 ・プレゼンテーションや活動内容について客観的な視点で振りかえるために、自己評価および生徒同士の相互評価を行います。 				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内での活動を重視し、お互いに協力して活動する。 ・グループにかかわらず、積極的に意見を交わしたり議論をする。 				
家庭学習	・授業の内容や研究テーマを決めるに当たって、必要な情報や資料を積極的に集めておくことを推奨する。				
備考					

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	グループで協力して積極的に活動をしようとしている。	25%	授業ごとに提出する「振り返りシート」およびレポートや小テストなどを資料として、各項目について到達度を評価する。
B. 思考・判断・表現	論理的に物事を考え、考察しようとしている。	25%	
C. 技能（資料活用能力）	積極的に資料や情報を集めて授業に活用しようとしている。	25%	
D. 知識・理解	題材として用いられた「科学史」の知識に関する理解がなされている。	25%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
1 オリエンテーション	2	「探究基礎」のねらいと集団づくり	○				「探究基礎」を学ぶ意味を理解するとともに、これから「集団活動」など生徒間のコミュニケーション力を育成する。
	7	課題発見プログラム	○	○	○		身のまわりの現象や地域社会のなかで問題・課題を見だしその分野の先行研究を調査する。
2 探究の手法	3	①「科学史」を用いて、「仮説」のたて方を学ぶ。	○	○	○		「仮説」をどのようにしてたてたらよいかを理解する。
	3	②「科学史」を用いて、「仮説」にのっとった「検証方法」について学ぶ	○	○	○		「仮説」にのっとった「検証方法」について考えることができる。
	3	③実際に「実験」を用いて検証する	○	○	○		実際に検証するための理科実験を自ら考え、実施することができる。
	5	④実験結果をもとに考察する方法を学ぶ	○	○	○		実験結果をもとに検証結果と照らし合わせながら仮説に対して考察を行うことができる。
	3	⑤これらの活動をもとに論文を作成する方法を学ぶ	○	○	○	○	研究論文の形式を学び、扱ったテーマについて論文を作成する事ができる。
3 考察と表現	4	「科学史」のテーマに関するポスターを作成し、グループ間で発表しながら知識の定着を図る。	○	○	○	○	同じテーマの研究論文をポスターにして他のグループに発表することで、発表の手法を身につける。 テーマに関する知識が深まっているかを確認する小テストを実施し、グループ全体として理解が深まったかを確認できる。
4 テーマ設定とグループ活動	8	2年次にむけた課題研究のテーマ決めとグループ設定。	○	○	○		自ら興味のある事象について集団ではなしをしながらグループを作って、研究テーマと活動計画（概略）を決めることができる。
5 まとめ	1	「探究基礎」による活動のまとめ	○				「探究基礎」を通して学んだことを振り返る。（アンケート） 2年次の活動について確認する。

【基本情報】

教科	スーパーサイエンス	学年	1年	教科書	なし
科目	スーパーサイエンス(SS) 研究I	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	なし
科目概要	2年次で『課題研究(グループ制)』を進めるために、研究の手法やプレゼンテーションの基礎を学ぶとともに、研究テーマを検討し研究計画を作成する。 ① 地域巡検：地域のフィールドワークを通してその手法を学ぶとともに、地域の自然環境や身近な現象に目を向ける。 課題研究に向けて探究活動を行い、研究テーマを模索する。 ② プレゼンテーション講座：地域巡検の課題や探究活動についてプレゼンテーションを作成し、基礎となる技術や姿勢を身につける。 ③ 『課題研究(グループ制)』のテーマ設定及び研究計画の作成				
到達目標	2年次の『課題研究』に向けて、以下の点がきちんと考えられた研究計画が立てられる。 ○現実的な計画である ○仮説を検証するために、適切な実験・観察及び調査等が盛り込まれている ○実験及び観察方法に再現性があり、創意工夫がなされている ○研究のまとめ及び発表までが日程に考慮されている				
授業の進め方	・教科書及び副教材(問題集等)はありません。 ・配付されるプリントに従って進められます(プリントは専用ファイルに保管)。 ・各単元においてレポートやプレゼンテーションを作成する。				
留意事項	・グループ内での活動を重視し、お互いに協力して活動する。 ・グループにかかわらず、積極的に意見を交わしたり議論をする。				
家庭学習	・授業の内容や研究テーマを決めるに当たって、必要な情報や資料を積極的に集めておくことを推奨する。				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	それぞれの取り組みにおいて、科学的知識に対する関心を高め、意欲的に追求しようとしているか。	25%	各取り組みにおいて、上記4観点を1～複数指定し、提出物等で評価する。発表を伴う取り組みにおいては、発表資料及び態度等も評価に加える。さらに、小テスト等の結果で評価する場合もある。
B. 思考・判断・表現	それぞれの取り組みにおいて、的確な判断がなされ、論理的に思考ができ、さらに適切に表現ができていないか。	25%	
C. 技能(資料活用能力)	それぞれの取り組みにおいて、技能の習得及び資料の活用が適切になされているか。	25%	
D. 知識・理解	それぞれの取り組みにおいて、科学的知識等の理解がなされているか。	25%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
1 オリエンテーション	1	「SS研究Ⅰ」のねらいについて				○	この一年間のSS研究の取組などについて理解する。
2 地域巡検Ⅰ (嵐山北郡野草園・神居古潭)	2	・事前学習	○	○	○	○	地域の自然を理解するとともにフィールドワークを実際に実施することで、その手法を身につけ、研修内容をまとめて発表できる。
	7	・北郡野草園・神居古潭でのフィールドワーク	○	○	○	○	
	2	・研修のまとめと発表	○	○	○	○	
2 2年生課題研究 中間報告会	2	・2年生の課題研究中間発表（ポスター発表）に参加する。	○	○	○	○	2年生の課題研究に対して積極的に考え、質問できる。
3 地域巡検Ⅱ	4	・事前学習	○	○	○	○	地域の自然を理解するとともにフィールドワークを実際に実施することで、その手法を身につけ、研修内容をまとめてレポートを作成し、発表できる。
	6	・旭山動物園での実習	○	○	○	○	
	4	・レポート作成	○	○	○	○	
	3	・報告会					
4 プレゼンテーション 演習	2	・プレゼンテーションソフトを使った実習	○		○		プレゼンテーション作成の基礎を理解する。
5 課題研究計画	1	・オリエンテーション					課題研究のテーマを自ら考え、適切に研究計画を立てることができる。
	4	・課題研究の計画作成	○	○	○	○	
	1	・活動のまとめ				○	